

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	タクシー運転手	単価の動き	・花見や歓送迎会などで、タクシーの利用は好調であった。また、保険会社による能登半島地震の倒壊家屋調査があり、連日現地との往復で貸切り状態となったため、単価が大幅に上昇し、売上が増加した。
	やや良くなっている	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・3月が悪かったせいもあり、4月は暖かさとともに売上が伸び、前年実績を上回った。今後に期待が持てるような上昇ぶりであった。
		その他専門店〔医薬品〕（営業担当）	来客数の動き	・既存店の来客数は前年比107%で、3か月前に比べ2ポイント増と堅調に増加している。
		タクシー運転手	販売量の動き	・原子力発電所の事故隠し事件、能登半島地震、地方統一選挙などで、タクシーは非常に多忙であった。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・3、4月は携帯電話の最大の新規需要期であり、中学卒業生を中心に購入が増え、品切れも相次いだ。
		通信会社（営業担当）	販売量の動き	・4月から携帯電話の大幅値引のキャンペーンを行っているため、前月に買いとどまっていた客の来店により、機種変更が大幅に増加した。
	変わらない	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・天候も良かったため、前半は5月にかけての旅行のファッションなどがミセスに好調であった。後半の催事企画では特に高級婦人服のまとめ買いなどが目立った。
		スーパー（店長）	単価の動き	・3月は気温が低く、客の動きも悪かったが、4月に入り回復した。ただし、飲料は動かず、野菜も相場の上下があるなど、商品の動きはそれほどでもなかった。
		スーパー（総務担当）	来客数の動き	・月の前半は売上が伸びていたが、中旬以降は前年割れとなった。客単価は変わらなかったが、来客数が前年を下回ったためである。また、ゴールデンウィークはレジャー関係の商品の動きが良くなかった。
		スーパー（営業担当）	単価の動き	・一品単価は競合店も含め、下げ止まりとなっている。
		スーパー（副店長）	単価の動き	・来客数は前年の97%、客単価は同102%で推移している。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・月の前半は天候が悪く、客足は今一つであったが、中旬から後半にかけて好天に恵まれ、ゴールデンウィーク前半は来客数、客単価とも大きく伸長した。月を通して見ると、来客数は前年比103%、客単価は同97%で、全体としてはほぼ前年並みに推移した。
		乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・販売台数は前年に比べ約7%減少している。
		自動車備品販売店（従業員）	来客数の動き	・来客数はあまり減少していないが、購買客が少なくなっている。客はあちこちの店舗を回り、品定めをしている。
		住関連専門店（店長）	販売量の動き	・暖冬により1、2月に売上が確保できた反動から、3、4月は伸び悩みの感がする。特に新築、増改築の際のまとめ買いが、前倒しの影響で減少している。
		観光型旅館（スタッフ）	来客数の動き	・能登半島地震により3月の売上は前年の91.6%に終わった。売上、予約状況とも上向きのなかで発生した地震によるもので、4月下旬に復旧オープンするが、地震の影響は大きかった。
		都市型ホテル（スタッフ）	来客数の動き	・3月に落ち込んだレストランの利用客が増加しているほか、宴会件数の増加などにより増収を見込んでいる。
		その他レジャー施設（職員）	来客数の動き	・春休み後で、かつゴールデンウィーク前ということもあってか、来客数が非常に伸び悩んだ。土・日曜日、平日ともに落ち込んだことから消費控えがあるように感じる。
		住宅販売会社（総務担当）	お客様の様子	・分譲不動産の動きに二極化傾向があり、市内中心部に近いほど、客の動きが早くなってきた。
	やや悪くなっている	百貨店（売場主任）	それ以外	・能登半島地震の影響がまだ続いている。
百貨店（売場担当）		来客数の動き	・駅近くに新しい商業施設がオープンしたにもかかわらず、集客の相乗効果があまりない。	

		スーパー（店長）	お客様の様子	・大手資本と地方スーパーとの本当の競争がますます激しくなっている。生鮮食品の売上や点数にはほとんど変化はないが、加工食品や菓子などで買い回りが顕著になっており、客単価が低下している。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・市の中心部は再開発中のため営業している店舗も少なく、集客力が弱くなっている。
		家電量販店（経営者）	販売量の動き	・既存店の売上が前年比で大きく減少した。相変わらず、各社は売れなくなると値引き競争に走るが、全体の販売量が上がるわけではなく、粗利を下げるだけの結果を招くため、積極的な販売促進を行っていない。
		乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・来客数が減少し、販売実績と計画の差が大きくなっている。新型の高級小型車の受注状況が期待を下回っているのが痛い。また、サービス工場の売上も今一つ伸びず、収益の足を引っ張っている。
		高級レストラン（スタッフ）	お客様の様子	・能登半島地震による予約のキャンセルが今月も継続している。能登在住者が出席できないことに加え、県関係の宴席予約はすべてキャンセルとなっている。
		一般レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・3月25日の能登半島地震により、本来は歓送迎会や花見など人の動く時期であるにもかかわらず、自粛ムードが広がり、風評により観光客が減少した。また、地方統一選挙も重なり、来客数、売上は減少した。
		スナック（経営者）	来客数の動き	・花見と選挙が重なったが、昨年から花見客の来店もほとんど無くなった。売上は団体予約が入ったため、良くなかった前年との比較で約1割の増加となった。客のブティック経営者から「今月は客の入りが悪い」と嘆きの声が聞かれる。
		都市型ホテル（スタッフ）	販売量の動き	・宿泊以外の宴会やレストランの売上は前年に比べ減少している。
		旅行代理店（従業員）	それ以外	・能登半島地震の影響もあって、客に旅行の見合わせ気分が見られる。
		通信会社（役員）	販売量の動き	・この時期は国民的関心を集めるテレビ中継も少ないことから、デジタル高画質テレビへのニーズも強くなく、当社の中心商品であるデジタルサービスの販売量も、従来に比べ低迷している。
		住宅販売会社（従業員）	来客数の動き	・4月半ばに行われた各社合同の住宅フェアの来場者数は、昨年に比べてかなり減ったように思われる。従来は親子で来場があり、お祭りみたいな雰囲気があったが、今年は活気が少し失われていた。
	悪くなっている	一般小売店〔鮮魚〕（従業員）	お客様の様子	・能登半島地震の影響が最も大きい。次いで統一地方選挙、さらに電力会社の事故隠ぺい問題があり、「地震で自粛、事故で自粛」と消費者の動きにブレーキがかかっている。
		百貨店（営業担当）	来客数の動き	・能登半島地震の発生地域からの客がほとんど見られなくなったため、来客数に大きな影響がある。
		乗用車販売店（経営者）	販売量の動き	・代替、新規共に引き合いすら激減している。高級輸入車は趣味、し好が購入動機として強かったが、今は予算が優先し、値引き中心の厳しい条件が日常化している。
		テーマパーク（職員）	来客数の動き	・能登半島地震の風評被害の影響で、団体、グループのキャンセルがあり、これに加え新規客の発生も鈍っており、利用客数は前年に比べ厳しい状況にある。
企業動向関連	良くなっている	化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・新規の受注が入った。
	やや良くなっている	食料品製造業（企画担当）	受注価格や販売価格の動き	・高額の新品の伸びが顕著で、売上の増加に寄与している。
	変わらない	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量は増加しているが、用途によっては価格面が厳しい。
		電気機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・昨年末から年明けにかけての在庫調整は一段落し、ここへ来てようやく受注は回復傾向にあるが、現状がこのまま続くとは限らない。
		精密機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・材料仕入先の話などを聞いていると、依然としてメーカー間の二極化が進むなか、眼鏡産地の各社は厳しい状況の下で、何とか仕事をつないでいる。

	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月工期の工事を終えたことに加え、新年度の始まりの月ということで、公共事業の発注がなく、民間工事を探して細々と食いつないでいる。例年以上に仕事がないという感じである。	
	会計事務所（経営者）	取引先の様子	・工事材料等卸売業者では、暖冬の影響から返品のかかない冬季用商品や原料等が不良在庫となり、困っている。	
やや悪くなっている	繊維工業（経営者）	受注量や販売量の動き	・暖冬の影響もあって、衣料関係の受注に力強さが無い。資材関係は堅調だが、全体的には弱含みの状況である。	
	一般機械器具製造業（総務担当）	取引先の様子	・競合メーカーの納期が短くなっており、また取引先でも仕事の納期が短くなってきた。	
	輸送業（配車担当）	受注量や販売量の動き	・能登半島地震の影響のほか、季節感がはっきりしないことから季節商材の動きが鈍いため、荷量が減少している。	
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	受注量や販売量の動き	・3月の後半からスーパー、ショッピングセンター、家電量販店、ホームセンターなどが折込広告の回数を減らし、また商圏の縮小などで出稿量を減らしてきている。	
	司法書士	取引先の様子	・会社の解散や事業の清算の案件が多い。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	職業安定所（職員）	求職者数の動き	・新規求職者数が減少してきており、中でも自己都合離職者や無業者が大幅に減少している。特に29歳未満の若年者の減少が目立っている。
	変わらない	人材派遣会社（社員）	求職者数の動き	・紹介予定派遣の動きも少し出てきた。しかし、実績のある技術者を求める需要にはなかなか応じ切れない。
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・依然として企業からの求人は好調だが、就業可能な人材の確保が追い付かない状況が続いている。派遣料金の値上げについては難航しており、首都圏とのかい離が大きい。
		職業安定所（職員）	それ以外	・10名以上の大量求人の多くが、派遣・請負求人であり、直接雇用への動きが見られない。
		民間職業紹介機関（経営者）	求人数の動き	・新卒雇用等で企業の要員が補充されたこともあり、紹介や派遣の依頼数は低調である。また、求人側との職種の不マッチも続いている。
	やや悪くなっている	求人情報誌制作会社（編集者）	求人数の動き	・月末に近づくにつれて求人数が減少してきた。
	悪くなっている	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・求人広告の売上は前年比約2割減少している。